

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.139
2015/4/21

目 次

会長退任にあたって.....	1
第31回年次大会のご案内.....	3
理事会報告.....	5
AJAMES 編集委員会報告.....	6
寄贈図書.....	7
会員の異動.....	8
事務局より.....	8
編集後記.....	9

会長退任にあたって

栗田禎子

今から二年前、会長に就任するにあたって前会長の臼杵さんに仕事内容を伺ったところ、「一番大変なのは事務局長であって会長ではないから大丈夫！活動も理事全員で分担して行なう形になっています。会長の仕事で面倒なのは銀行に行って口座を開くことぐらいです」という内容の、どこかのどかな調子のメールを頂いた。

誇張だろうと思っていたのだが、任期を終えるにあたって振り返ってみると、本当に臼杵前会長の言われる通りで、学会運営上の面倒な実務はすべて、山口昭彦事務局長とその有能なスタッフに任せきりであった。AJAMES 編集・国際交流・公開講演会企画・ニューズレター発行等の活動も、それぞれの担当理事がテキパキとこなして下さった。この二年間を振り返ってみると、成功裡に終わった第 29 回・30 回年次大会、AJAMES 発行、公開講演会、アンカラでの WOCMES（中東研究世界大会）会議への参加、AFMA（アジア中東学会連合）の大会の京都での開催、そして中東学会 30 周年企画の開始など、非常に充実した学会活動が展開できたのではないかと思う。個人的にも、これらの会議に参加して特に若い世代の中東研究者の研究成果に触れたり、また国際交流の一環として韓国中東学会の会議に参加してソウルを訪れる機会を得たりしたのは非常に楽しい思い出である。総じてこの二年間、私個人が苦労したことはほとんどなく、会員各位、理事・事務局の努力のおかげで、中東学会の活動はめざましい成果を挙げてきたと言える。

このように個人的には心楽しくかつ有意義に過ごすことのできた二年間だったが、では今、会長としての任期を終えるにあたって、日本の中東研究の前途をめぐって晴れ晴れした心境かと問われれば、残念ながらそうとは言えない状況が存在する。これはいうまでもなく、昨今の日本の政治・社会の動き、さらにはそれと中東情勢の奇妙で密接な絡み合い方に起因する。2013 年 7 月のニューズレター（132 号）に寄せた「会長就任にあたって」という文中で私は、日本社会の急速な変質が進行中であること、それがなぜか中東を「突破口」にする形で進む傾向が観察されることを指摘したが、二年経った現在、この指摘は不幸なことに的中してしまった。現在、日本では「集団的自衛権」容認の閣議決定、自衛隊の活動を地球大に拡大する「安保法制」作りなど、戦後日本が掲げてきた平和主義の理念と明らかに矛盾する動きが急であるが、その節目節目で口実として用いられるのは「ホルムズ海峡の機雷除去」問題、「日本人質救出」問題などなど、中東をめぐる情勢なのである。いわば「中東有事」をテコに日本の国家・社会のあり方の大転換が行なわれようとしており、その過程で戦後日本の平和主義も、あるいは中東と日本がこれまで築いてきた関係のあり方全体も、一瞬にして変質し、崩れ去りかねないような状況に対し、日本の中東研究者はどのように向き合えばよいのだろうか？今やわれわれは、ひとつ間違えば中東に対する軍事進出の片棒を担がされたり、「テロとのたたかい」を口実に平和憲法を破壊しようとする動

きのなかで思わぬ役割を演じさせられたりしかねない状況に置かれている。「シャルリー・エブド事件」や「日本人質事件」以降漂い始めたかつてない重苦しい空気の中で、暗澹たる心境になっている研究者も少なくないだろう。

冒頭の臼杵前会長による「手間がかかるのは銀行口座を開くことくらい」というメールに話を戻せば、この手続きはたしかに思いのほか面倒で、私も会長名で口座を開設しに行った時、「お客様が反社会的勢力でないかどうかの確認に若干時間がかかります」云々と言われ、内心「『日本中東学会』なんていう名前の暴力団なんかあるわけないだろう！」と叫んだりしたものであるが、今ではこれはまんざら冗談事でもなくなってきている。「日本人質事件」直後には地方の金融機関で、名前に「イスラム」という語の入っている団体が口座開設を拒否されるという事件も起きた。「テロの脅威」を煽る形で軍事国家化が進み、それと並行する形で「テロ」と「イスラム」を関連づけるような「イスラモフォビア」的潮流が日本でも強まることになれば、遠からず、中東の文化や社会を理解しようとする営為、「中東研究者」という存在自体がうさん臭く(!)見られるようになる日も来るかもしれない。

今後日本の中東研究者はどのように生き、発言していくべきか。それは個々の研究者が模索し、工夫していくしかないが、大切なのは、時流に流されたり権力におもねったりするのではなく、あくまで自分の研究者としての蓄積・知見を拠りどころとして、考え、発信し続けていくことだろう。御用学者や「テロ専門家」になり下がるのでもなく、同時に「イスラム」をめぐる(逆の意味での)本質主義的・ステレオタイプの言説を量産するのでもない、リアルで説得力のある中東研究、社会科学的洞察と歴史・文化に対する理解とを兼ね備えた中東研究(=かつて林武氏が提唱した「文武両道」の中東研究、のイメージを想起することも重要かもしれない)の構築をめざして、今こそ研究者の総力を結集すべき時であると思う。

第31回年次大会のご案内

繰り返しご案内しているとおり、5月16日(土)、17日(日)に、同志社大学今出川キャンパスにおいて、第31回年次大会が開催されます。先日、全会員に向けて暫定プログラムを発送いたしました。また、学会ホームページにも大会案内を掲載しており、こちらは随時更新していきますので、適宜ご覧下さい。

【初日公開企画】

初日(5月16日)午後の公開企画は、公開シンポジウムです。内容は、近代史、政治学、人類学を専門とする4人の講演者を中心に、19世紀のオスマン朝の弱体化と西欧列

強の侵出から、過激武装集団が大きな問題となっている21世紀の今日までの流れの中で、中東の地域秩序や政治・社会構造がどのように変化し、宗教・宗派がどのように政治的な争点として浮上してきたのかを議論します。なかなかキャッチーなタイトルが決まらないのですが、この原稿を書いている3月31日の時点での暫定タイトルは、『中東の「長い19世紀」：地域秩序の流動化と宗教・宗派の政治化』です。

公開シンポジウムの講演部と討論部の間に、30分ほどのアラブ音楽ミニコンサートが挟まれます。アラブ・バイオリンとウードの合奏が披露される予定ですので、こちらも是非お楽しみ下さい。

【二日目の個人研究発表・企画セッション】

二日目(5月17日)は、朝9時から夕方17時まで、個人研究発表と企画セッションが行われます。企画セッションは、青山弘之、岩坂将充、高岡豊の報告による『「アラブ」の春から「イスラーム国」(タールイシュ)台頭へ:暴力の連鎖と混乱の加害者、被害者、そして実行犯は誰か?』(仮)と、BAUDEN Frédéric、ITO Takao、OTSUKA Osamuの報告による*Historians in the Pre-Modern Middle East: Their Aims, Techniques and Products*の二つです。個人研究発表は、九つのセッションに分かれます。詳細は、学会ホームページに掲載のプログラムをご参照下さい。

【参加登録他】

大会参加費、懇親会費、2日目のお弁当の事前振り込みは4月17日に締め切りですが、大会参加と懇親会参加については、当日の受付で手続きをすることが出来ます。当日参加費:2,000円、当日懇親会費:6,000円(学生会員は5,000円)となります。2日目のお弁当の申し込みは、事前振り込みのみで受け付けております。託児所利用の申し込みは、4月20日で締め切ります。

【宿泊の注意】

大会期間は、京都の初夏の観光シーズンと重なり、京都市内の宿の予約は大変難しくなっております。会場は、京都市営地下鉄今出川駅直上と交通至便です。市営地下鉄と

連絡している阪急京都線、JR西日本各線の沿線にあります、高槻、茨城、大阪各市のホテルなどもご検討下さい。

大会の成功のため、第1日、懇親会、第2日のいずれにおきましても、多くの会員の方々にご参加頂けますよう、改めてお願い申し上げます。

日本中東学会第 31 回年次大会実行委員会事務局

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学神学部 森山央朗研究室

Tel: 075-251-3358 E-mail: jame2015@mail.doshisha.ac.jp

(可能な限りメールでご連絡・お問い合わせいただければ幸いです。)

(森山央朗)

理事会報告

【第 15 期・16 期合同理事会報告】

日時：2015 年 2 月 19 日（木）18:00～19:00

場所：聖心女子大学 1 号館 3 階 327B 号室（史学科会議室）

出席：飯塚正人、大稔哲也、粕谷元、栗田禎子、黒木英充、近藤信彰、酒井啓子（第 15 期）、保坂修司、山岸智子、山口昭彦

欠席：赤堀雅幸、臼杵陽（第 15 期）、江川ひかり、小杉泰（第 15 期）、東長靖、長沢栄治（第 15 期）、林佳世子、松本弘、三浦徹（第 15 期）、森本一夫

〔議題〕

1. 役職・理事業務の報告と引き継ぎ

第 15 期事務局長より各職掌について業務の報告があり、第 16 期理事会の職掌分担（新設や廃止を含む）について参考意見が提示された。

2. その他

特になし。

【16 期新理事会報告】

日時：2015 年 2 月 19 日（木）19:00～20:00

場所：聖心女子大学 1 号館 3 階 327B 号室（史学科会議室）

出席：飯塚正人、大稔哲也、粕谷元、栗田禎子、黒木英充、近藤信彰、保坂修司、山岸智子、山口昭彦

欠席：赤堀雅幸、江川ひかり、東長靖、林佳世子、松本弘、森本一夫

〔議題〕

1. 会長と事務局長の選任

投票により、東長理事を会長に選出した。事務局長候補を検討したが、結論には至らなかった。

2. 理事の任務分掌

その他の任務分掌について話し合い、以下の通り決定した。

AJAMES 編集委員会：粕谷理事（編集長）、保坂理事（副編集長）、近藤理事（副編集長）

国際交流委員会：栗田理事、江川理事、林理事

企画担当：森本理事、黒木理事、山岸理事

ニューズレター・書記担当：松本理事

ホームページ担当：山口理事

年次大会担当：赤堀理事

渉外担当：大稔理事

財務・会則担当：飯塚理事

事務局長については東長新会長の意向を踏まえて、あらためて候補を探すこととなった。

（山口 昭彦）

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会よりご報告いたします。

1. 30-2号 刊行しました。

30-2号は1月に刊行いたしました。まだお手元に届いていないというかたがいらっしゃれば、事務局までご連絡ください。

2. 31-1号 編集作業中

昨年12月に投稿を締め切った31-1号は編集委員による審査が行われ、論文3本、研究ノート1本、博士論文要旨1本の掲載が決定しました。

また、これとは別に31-1号には昨年12月に京都で行われたAFMA大会での発表の

一部が掲載される予定です。

3. 31-2号 締め切り間近

31-2号は6月1日が締め切りです。投稿を検討されているかたはお忘れなきよう、よろしく願いいたします。

なお、AJAMESは常時、博士論文要旨の投稿を受けつけております。博士論文を執筆したかたはぜひ投稿を検討してください。また、身近に博士論文を執筆したかたがいらっしゃれば、ぜひAJAMESへの投稿を呼びかけてください。

AJAMESでは、会員のみなさまの研究成果の幅広い広報を考慮し、欧文による投稿を推奨しています。論文・研究ノート・書評など、欧文による投稿をお待ちしております。その他、英文による特集の企画がありましたら、ぜひ投稿をご検討いただければと思います。

4. 本誌に関するお問い合わせ

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ

(一財)日本エネルギー経済研究所中東研究センター

保坂修司『日本中東学会』編集委員会気付

E-mail: ajames-editor@james1985.org

(『日本中東学会年報』編集委員長 保坂 修司)

寄贈図書

【単行本】

アジア太平洋フォーラム・淡路会議『第15回アジア太平洋フォーラム淡路会議』

アジア太平洋フォーラム・淡路会議、2015年。

今井 宏平『中東秩序をめぐる現代トルコ外交 - 平和と安定の模索 - 』ミネルヴァ書房、2015年。

今野 泰三、鶴見 太郎、武田 祥英編『オスロ合意から20年 - パレスチナ／イスラエルの変容と課題』NIHU Program, Islamic Area Studies, TIAS Middle East Research Series No.9. NIHU イスラーム地域研究東京大学拠点中東パレスチナ研究班、2015年。

日本大学生物資源科学部国際地域研究所編『野生動物の利用管理 - フードシステム・エコツーリズム・エコビレッジの観点から - 』龍溪書舎、2015年。

嶺崎 寛子『イスラーム復興とジェンダー - 現代エジプト社会を生きる女性たち』

昭和堂、2015年。
ロージャー・オーウェン著、山尾 大／溝渕 正季訳『現代中東の国家・権力・政治』明石書店、2015年。

【逐次刊行物】

『明日の東洋学：東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター報第33号』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2015年。
『季刊アラブ』No.152、日本アラブ協会、2015年。
『日本クウェイト協会報』No.233 February2015、日本クウェイト協会、2015年。
『dimensions international: サウジアラムコ季刊誌』サウジアラムコ、2014年秋号。
dimensions international: A Periodical of Saudi Aramco. Fall 2014, Saudi Aramco, 2014.
Journal of the American Research Center in Egypt, Volume50, 2014.

会員の異動

【新入会員】

MORRISON Scott

川上 重夫

伊藤 隆郎

上原 健太郎

Bauden Frédéric

事務局より

右往左往の連続でしたが、2年間の事務局運営をおおむね無事に終えることができ、ほっとしているところです。会員みなさまのご協力にあらためて感謝申し上げます。

とくに、補佐として事務局を支えてくれた飯野りささんと千條真理子さんには感謝の言葉もありません。また、ウェブ担当の北爪秀紀さんには、ニューズレターはもとよりMLの配信などですっかりお世話になりました。この場を借りて、お礼申し上げます。

4月から第16期理事会が始動し、事務局は同志社大学の森山央朗研究室に移転となりました。今号が、第15期理事会として最後のニューズレターとなります。みなさま、大変お世話になりました。

(事務局)

編集後記

年度が改まり、本学会も東長靖新会長の下、新たな理事で活動が始まりました。私は引き続き、ニューズレターの編集を担当することとなりました。読者の皆様、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

これからも、本学会に関わるご報告はもちろんのこと、学会外の学術会議などの記事を掲載したいと考えています。みなさまのなかで、そのような会議その他に関わる投稿をご希望の方は、ぜひ私までご連絡ください（できますれば、なるべく前広にお願いします）。

今後とも、よろしくお願いいたします。

(松本弘)